

# 質 疑 回 答 書

1 番号 新潟市契約公告第89号

2 件名 新潟市ガバメントクラウド運用管理補助業務委託

上記につきまして質疑事項がありましたので、下記のとおり回答いたします。

No	ドキュメント	ページ番号等	質 疑 事 項	回 答
1	仕様書	P. 4 項番2.2 目的	「・ガバメントクラウドとオンプレミス間のデータ転送の設計・構築」とありますが、オンプレミスと連携が必要な業務システムはいくつありますでしょうか。 また、他クラウドとガバメントクラウド間でのデータ連携は対象外で問題ないでしょうか。	オンプレミス側の業務システムは今後整理していくため、現段階で具体的な数をお示しすることが困難です。 オブジェクトストレージの構築に関しても連携元先をお示しできないこともあります、本業務では母体とバケットを構築対象とさせていただいています。オンプレミス側は、データ連携に係る機能別連携仕様などをご参考にしていただき、内部システムや外部システムなどが該当するものとして想定をお願いします。 他クラウドをAWS以外とした場合、ご認識のとおりです。
2	仕様書	P. 4 項番2.2 目的	「・上記データ転送を行う際の暗号化および認証・認可の実装」とありますが、SSHキーを前提とした暗号化と、ASPベンダと協議したSFTPユーザ情報の登録を行うことで、認証認可サーバーを用いた認証認可を行うことではない認識で問題ないでしょうか。	ご認識のとおりです。
3	仕様書	P. 5 項番5.3①全体概要	「自動的に有効（或いは無効）となるサービスなどについても、文書として作成すること。」について ・デジタル庁管理となるサービスなど、複数のサービスにおいて運用管理補助者では閲覧	問題ありません。 この要件は、本業務で関わらないクラウドサービスによるセキュリティリスクに対して、いかに対策するべきかの課題があると考えているものです。契約後、別途協議させていただければと思

			ができないサービスがございます。自動適用テンプレート/必須適用テンプレートで自動的に有効（或いは無効）となるサービス、を文書として作成する形でも問題ございませんでしょうか。	ます。
4	仕様書	P. 6 項番 5.3①全体概要	「セキュアなファイル転送機能の設計、構築」とありますが、Transfer Familyを用いたSFTP連携を実装し、その他の連携方式は対象外との認識で問題ないでしょうか。	ご認識のとおりです。 目的はセキュアなデータ連携を行うことです。そのためAWS Transfer FamilyのSFTP利用を想定しています。
5	仕様書	P. 8 項番 6.1②プロジェクト管理	・課題管理表およびリスク管理表は、弊社フォーマットでの管理表作成で問題ないでしょうか。 「・情報セキュリティ教育の実施」とありますが、対象の教育については弊社内の教育資料にて実施し、教育資料自体の提供等は不要の認識で問題ないでしょうか。 また、契約期間中で1回の実施で相違なかったでしょうか。	ご認識のとおりです。 2点目のセキュリティ教育について、どのように何回実施するかまでは求めておりませんので、会議体のように実施される場合の回数についてはご検討ください。プロジェクト途中で体制変更がある場合なども適宜ご配慮ください。
6	仕様書	P. 9 項番 6.2③共通機能に係る設計・構築 (ア) 運用管理アカウントVPCの設計・構築	「CIDR ブロックは/23 以下」について ・設計思想上、/21のCIDRを想定していますが、/23より広いCIDRを払出頂くことは難しいでしょうか。	必要以上に広げないほうがよいと考えて仕様上お示ししておりますが、設計上/21の想定とのことであれば、協議のうえ決定とさせていただければと思います。

7	仕様書	<p>P. 10 項番6.2③ (エ) 共通機能 設計・構築 ・オブジェクト ストレージ上の バケット作成</p>	<p>「オブジェクトストレージ上に標準準拠システムが利用する全ての組み合わせのバケットを作成すること。」とありますが、対象となる業務システム数はいくつとなりますでしょうか。</p>	<p>データ連携要件の各業務の機能別連携仕様書(直近の公開は9月30日版)を参照すると、連携先・連携方向として39業務あり、この中には業務IDが付番されていない「内部事務システム」と「外部システム」が存在します。業務IDの組み合わせにより作成できるバケットは、37業務IDで単純な組み合わせは666個になります。また自システム同士での連携が規定されている場合もあり、<math>666+37=703</math>個になります。これに前出の業務IDを持たない2業務のバケット<math>37 \times 2=74</math>個を加えますと777個になります。なお、認識に相違がある場合、本業務内で調整させていただく可能性がございます。</p> <p>(「自システム同士での連携が規定されているもの」はデジタル庁HPに公開されている、「データ要件・連携要件の標準仕様」の各業務別の仕様書を参照していく必要があります。  <a href="https://www.digital.go.jp/policies/local_governments/specification#general">https://www.digital.go.jp/policies/local_governments/specification#general</a>)</p>
8	仕様書	<p>P. 10 項番6.2③ (エ) 共通機能 設計・構築 ・オブジェクト ストレージ上の バケット作成</p>	<p>「オブジェクトストレージ上に標準準拠システムが利用する全ての組み合わせのバケットを作成すること。」とありますが、本業務にて作成が必要なバケット数について教えて下さい。</p> <p>デジタル庁の「ファイル連携に関する詳細技術仕様書（第2.5版）」が参考する「地方公共団体の基幹業務システムの統一・標準化における各種IDの管理方針」を見ると、標準準拠システム計20業務にて利用する業務IDは39ID(計40IDのうち1IDが欠番)が規定されています。</p> <p>各業務IDの全ての組合せを必要とする場合、バケット数は741個となりますが考え方は合っていますでしょうか。</p>	<p>データ連携要件の各業務の機能別連携仕様書(直近の公開は9月30日版)を参照すると、連携先・連携方向として39業務あり、この中には業務IDが付番されていない「内部事務システム」と「外部システム」が存在します。業務IDの組み合わせにより作成できるバケットは、37業務IDで単純な組み合わせは666個になります。また自システム同士での連携が規定されている場合もあり、<math>666+37=703</math>個になります。これに前出の業務IDを持たない2業務のバケット<math>37 \times 2=74</math>個を加えますと777個になります。なお、認識に相違がある場合、本業務内で調整させていただく可能性がございます。</p> <p>(「自システム同士での連携が規定されているもの」はデジタル庁HPに公開されている、「データ要件・連携要件の標準仕様」の各業務別の仕様書を参照していく必要があります。</p>

			<p>■ 現時点での標準準拠システムと業務ID数 : 20業務 39業務ID</p> <p>■ 全ての業務IDによる組み合わせバケット 数 : 741個</p>	<a href="https://www.digital.go.jp/policies/local_governments/specification#general">https://www.digital.go.jp/policies/local_governments/specification#general</a>
9	仕様書	P. 10 項番6. 2③ (工) 共通機能 設計・構築 ・オブジェクト ストレージ上の バケット作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ASP事業者への確認事項については、弊社作成のヒアリングシートベースでの確認とし、原則お客様経由での確認を想定していますが、問題ないでしょうか。</li> </ul>	問題ありません。
10	仕様書	P. 10 項番6. 2③ (工) 共通機能 設計・構築 ・オブジェクト ストレージへの アクセス制御	<p>「オブジェクトストレージへのアクセス制御を行うこと。具体的な内容については、ASPと協議のうえ実施すること。」とありますが、アクセス制御の設定作業時はASP毎に固有の情報の確認が必要となることを想定しているため、本業務の範囲では、以下に記載されている2事業者3業務におけるアクセス制御を設定することによろしいでしょうか。</p> <p>■ P. 23 「表2 プロジェクト関係者-ASP」 直近の予定において、ASPが担当する業務システムは富士通Japan 株式会社が「介護保険」、「障がい福祉」（同一VPC）株式会社電算が「児童手当」</p>	ご認識のとおりですが、別で調達する「府内とガバメントクラウド間のデータ連携システム構築業務」に係る事業者様も関係すると思われます。当該事項に関しては、連携の元先双方の調整が発生する可能性がございます。また、仕様書にお示している直近の予定以外にも、今後順次着手していく計画です。本業務の性質上、予め定量的に明確化することは難しいので、ご理解ください。あまりにも調整事項が想定より膨大になる場合は、別途協議のうえ対応を検討したいと思います。
11	仕様書	P. 10 項番6. 2③ (工) 共通機能 設計・構築 ・SFTP サーバー のユーザ設計・ 登録	<p>府内からオブジェクトストレージへのアクセス制御はSFTPにて実施すると認識しておりますが、バケットへのアクセス制御を行うため、SFTPサーバーのユーザは業務IDごとに作成する必要があると考えております。</p> <p>府内オンプレミス環境の業務システムからオブジェクトストレージへのアクセスは、別で調達公告が出ている「府内とガバメントクラウド間のデータ連携システム構築業務」内のデータ連携システムが一元的に実施するとの</p>	ご指摘の点について、現段階で仕様としてお示しすることができません。（標準仕様などで許される範囲で）本業務の契約のなかで実装可能であり、かつ、追加で見込まれる対応なども考慮し、効率的であると考える方法にて想定してください。別で調達するデータ連携システムでは、その方法に倣うように調整を図りたいと思います。それを踏まえたうえでとなりますますが、ご提示の2案としては①が望ましいのではと考えます。

			<p>ことですが、この場合、SFTPサーバーのユーザ作成方法として、以下の①②何れをお考えでしょうか？</p> <p>①業務ID分のユーザを作成し、データ連携システムが複数ユーザを使い分けてオブジェクトストレージへアクセスする      ②データ連携システム用のユーザを1つ作成し、複数の業務IDに対応したバケットへアクセス可能とする※この場合は、業務システムがガバメントクラウドへ移行するたびにアクセス権限の再設計が必要</p>	
12	仕様書	P. 10-11 項番6.2③ (エ) 共通機能設計・構築 ・SFTP サーバーの認証方式	「・SSH キー認証を基本とするが、パスワード認証、パスワード・SSH キー併用認証についても、対応できるようにしておくこと。」とありますが、SFTP通信の場合、パスワード認証単体は対象外と認識して問題ないでしょうか。	ご認識のとおりです。パスワード認証単体で行うものではありません。
13	仕様書	P. 10-11 項番6.2③ (エ) 共通機能設計・構築 ・SFTP で用いる SSH キーの設定	<p>AWS環境のSSHキー管理は「AWS KMS、AWS Secrets Manager を用いて適切に設定を行うこと。」とありますが、別で調達公告が出ている「府内とガバメントクラウド間のデータ連携システム構築業務」内のデータ連携システムはオンプレミス環境にあるため、これらのAWSサービスでの管理が出来ないと考えております。</p> <p>データ連携システム用のSSHキーの作成、配布、ローテーションの方法についてどのように行なうことを考えているか、また、本業務の範囲となるか教えて下さい。</p>	目的はセキュアなデータ連携を行うことです。そのためAWS Transfer FamilyのSFTP利用を想定しています。「府内とガバメントクラウド間のデータ連携システム構築業務」にもAWS Transfer FamilyのSFTP利用を要件としています。AWS KMS、AWS Secrets Managerでの管理が出来ないとお考えであれば、それに限定せず、セキュア通信が実現できる設定であれば構いません。
14	仕様書	P. 11 項番6.2③ (オ) 受託者環境からの接続	・特定操作（修正プログラムの適用、ソフトウェアのアクティベーションの実施及び管理コンソール接続）のみとなることから、インターネット経由での作業を想定していますが、問題ないでしょうか。	仕様書に記載してあるとおり、各種要件を満たせば問題ありません。

15	仕様書	P. 11 項番6.2③ (キ) 一元的な運用管理に関する項目の設計・構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>他アカウント環境の情報を一元管理することが難しいため、本共通機能アカウント内で確認が取れる範囲での対応で問題ないでしょうか。</li> </ul>	問題ありません。
16	仕様書	P. 12 項番6.2③ (キ) 一元的な運用管理に関する項目の設計・構築 ・監視	<p>「IAM Access Analyzer : IAM ポリシーの異常検知」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本機能は、現時点デジタル庁管理となり運用管理補助者に権限はないため、制御不可のサービスとなります。デジタル庁の方針変更に伴い、権限が有効化された場合にはスコープ範囲とさせて頂きますが、質問票起票時点では対象外サービスと考えて問題ないでしょうか。</li> </ul>	問題ありません。
17	仕様書	P. 13 項番6.2④ (ウ) 問合せ対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>本調達は令和8年3月末までの構築フェーズが対象となるため、実際に24時間365日での対応は不要の認識で問題ないでしょうか。</li> </ul>	メール受付については、24時間365日での対応を求めます。構築フェーズであることを理由として業務継続に影響がないと断言できるかまでは、現時点では不明のため、協議のうえ決定とさせてください。本調達においては知見や事例などを踏まえて想定をお願いします。
18	仕様書	P. 14 項番6.2④ (キ) 情報セキュリティ実施手順	<p>「障害発生を検知した場合は速やかに（遅くとも30分以内に）報告すること」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AWSのマネージドサービスである、SNSを使用したメール通知を30分以内に送付する形での実現で問題ないでしょうか。</li> </ul>	問題ありませんが、メールの内容は日本語でお願いします。
19	仕様書	P. 14 項番6.2④ (キ) 情報セキュリティ実施手順	<p>「すみやかに対応し復旧させること」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バックアップからの復元やアカウント内の設定見直しにより復旧可能な範囲については対応しますが、AWSリージョン障害など大規模インフラ障害が発生した場合などは、AWSの復旧を待つ形となる認識で問題ないでしょうか。</li> </ul>	ご認識のとおりです。なお、具体的な範囲や対応については協議のうえ決定とさせてください。

20	仕様書	P. 21 図3 本業務の対象範囲（詳細）	・構築する運用管理アカウントは「本番環境」のみで問題ないでしょうか。	ご認識のとおりです。仕様書では「本番環境及び本番相当環境のアカウント」としています。「検証環境」等本番以外のアカウントは想定していません。
21	仕様書	P. 21 図4 スケジュール（案）	・運用管理補助の矢羽根について、令和7年10月頃から引かれておりますが、令和7年12月以降での実施となる認識でお間違いないでしょうか。	ご認識のとおりです。
22	仕様書	P. 21 図4 スケジュール（案）	・運用管理補助の「ガバメントクラウド環境の利用開始」として令和8年3月に記載がありますが、本調達にて構築する、共通機能アカウントのアカウント払い出しが3月となる意図ではない理解で問題ないでしょうか。	ご認識のとおりです。適時、必要なアカウントは申請していただければ、本市よりデジタル庁へ払出申請を行います。
23	仕様書	P. 21 図4 スケジュール（案）	・標準準拠システム運用の矢羽根について、令和8年1月頃から本稼働するシステムがあるように見受けられますが、本調達は令和8年3月末までを構築期間とし、運用保守は対象外となる認識で問題ないでしょうか。	ご認識のとおりです。 本業務における運用保守は今回の対象外ですが、本市スケジュールの都合上、本業務期間中に本稼働する業務が1業務あることをご理解ください。 そのうえで、業務システムが本稼働に最低限必要な作業は終えられるようにお願いいたします。
24	仕様書	P. 26 表4 成果物一覧	・成果物については、デジタル庁およびJ-LIS申請フォーマットが決まっているものを除き、弊社フォーマットでの作成を前提としていますが、問題ないでしょうか。	問題ありません。